



西川町の保育園留学の狙いと今後

2026年度版

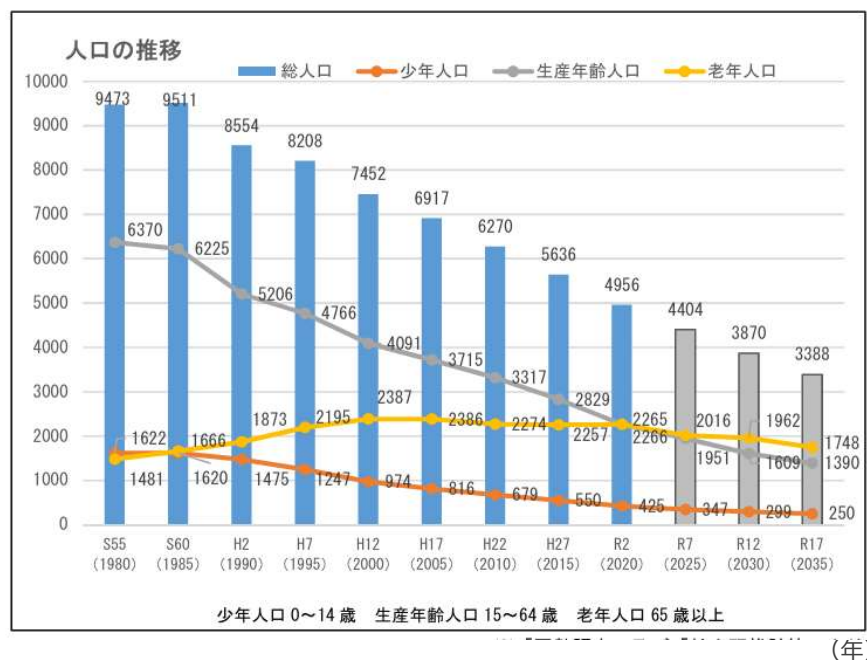
はじめに ～少子化を踏まえた保育園の課題～

2.つながる

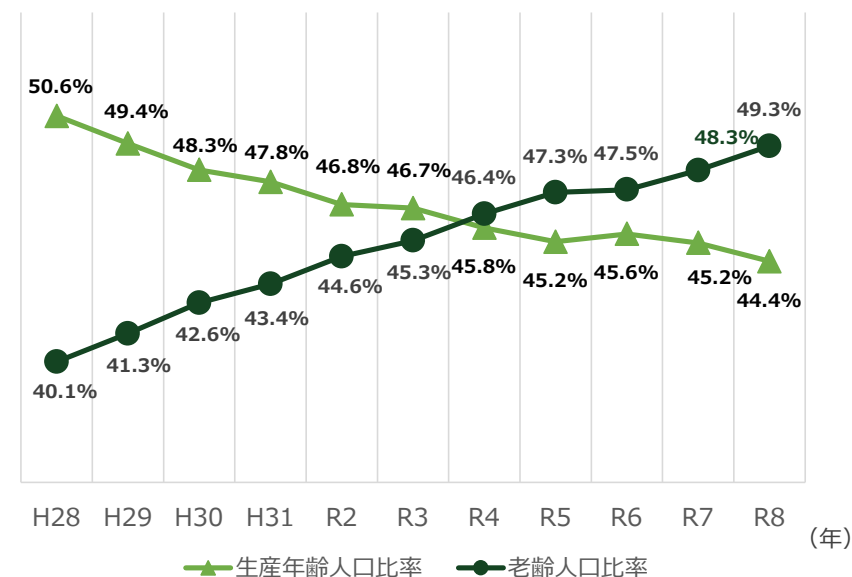


- 人口減少対策等を進めてきたものの、人口減少の抑制はできず、令和4年には5,000人を割り込み、毎年約100人ずつ減少している。
- 類型別人口比率の推移は、令和4年に老年人口比率が生産年齢人口比率を超え、その後も比率の差は拡大している。
令和6年には、**生産年齢人口（15～65歳未満）の割合が0.4%増加**
- **出生減少に伴い入園児減少が見込まれ、町立保育園の人員適正化の必要性が高まっている。**

■ 総人口の推移（各年4月1日時点）



■ 類型別人口比率の推移（各年4月1日時点）



はじめに ～関係人口政策での保育園留学の位置づけ～

1. 稼ぐ

2. つながる



- 交流人口や関係人口、定住人口などの人口分類に応じて、ソフト・ハード事業を計画的・戦略的に展開。
- 令和6年7月に開始した「お試し暮らし住宅」は、保育園留学利用者などを中心に延べ708人が活用。
- 保育園留学は、富裕者層をターゲットとした、関係人口政策のソフト事業の柱としている。**



保育園・小学校留学の目的

2.つながる



- 保育園留学は、町外の保育園児を持つご家族を対象に、一時預かりの仕組みを利用して1週間～2週間受け入れる事業。
- 園児が保育園にいる間、両親はTRASでテレワークを行うなど、西川町で仕事をしながら暮らし体験ができる。
- 令和5年度より、山形県の関係人口施策と西川町デジタル田園都市国家構想交付金事業として開始。
- デジタル田園交付金を活用し、5年事業（令和5年度～9年度まで）として実施する、現在4年目の事業
令和5年から3年間で延べ**69家族・95人が利用**。1家族は、町内に空き家を購入し二地域居住を行っている。
- 令和7年度からは、小学校留学も開始**し、5家族19人が利用。



目 的

- ①**保育園留学を通じた新たな西川ファンの獲得**
- ②**保育園の維持・雇用確保**
- ③**新しいお友達を受けいれる寛容な保育：人口増の基礎**

主な 経済的効果

- ▶**保育園の有効活用と職員の雇用維持**
保育園の稼働率は約50%前後。そこで、留学園児を一時預かりとして迎え入れ、保育料収入の増加・保育士の雇用を維持。
- ▶**町営住宅の賃料収入増**
「おためし暮らし住宅」を活用いただくことで、空き室から町の収益（賃料収入）を生み出せている。
- ▶**域内消費の拡大**
滞在中の町内飲食店の利用のほか、小売店等での食品やお土産の購入など、町内消費の拡大に。

唯一の保育施設・町立にしかわ保育園の現状と強み

2.つながる



○ 出生から小学校就学前までの幼児のうち、約9割が保育を利用し、わが町における保育園の役割がますます重要になっている。

【保育面】 保育士1人当たりの保育園児4.6人（国平均5.3人）と、園児個々の成長に合わせたきめ細やかな保育が可能

【環境面】 園児1人当たり（2歳以上児）の屋外遊戯場・園庭が43.6㎡と、国の基準（3.3）を上回る良好な環境

また、施設内で給食を調理し、地産地消の食材を使ったあたたかい給食を提供

【費用面】 町立保育園である強みを活かして、第3子保育料や給食費を無償化

令和7年度の保育園の状況

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
出生	10	9	10	16	22	17	84
園児	5	9	9	16	22	17	78
保育率	50%	100%	90%	100%	100%	100%	92.8%



保育園の保育環境

	西川町	国基準	東京	近隣町A
園児1人の保育・遊戯室	8.39	1.98	2.9～40.5	8.59
園児1人の屋外遊技場	43.71	3.3	7.67	23.20
保育士1人の保育園児	4.64	5.32	5.2	3.12

保育料

- ・ 0歳～2歳の保育料：保護者の所得（階層区分）に応じて保育料を決定
- ・ 3歳～5歳の保育料：完全無償化



▲「温かい地産地消給食」と「やさしい先生方」

内部環境

	Strength 強み	Weakness 弱み
Opportunity 機会	機会 × 強み 強みを活かして 機会創出を狙う	機会 × 弱み 弱みを改善・強化し 機会創出を狙う
Threat 脅威	脅威 × 強み 強みを活かして脅威や リスクを回避しつつ 機会創出も狙う	脅威 × 弱み 弱みを理解することで 脅威を回避してリスクを 最小限に抑える

■西川町の保育園の分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	Strength (強み) ○保育環境が良好 ○保育士のおもてなし ○温かい・おいしい給食 ○四季ごとの豊かな自然 ○関係人口を歓迎する政策 ○おためし住宅あり・近い ○コーディネーター伴走 ○レンタカー付	Weakness (弱み) ▲園児の数が年々減少 ▲保育士の雇用維持 ▲冬は豪雪 ▲町内でスーパーが少ない
外部環境	Opportunity (機会) ○保育環境を比較優位あり ○地域商社仲介の場合は、 費用負担軽減 ○当町コーディネーターの事前 事後フォロー	Threat (脅威) ▲豪雪 ▲空港・山形駅からの移動 手段少ない

保育園留学の受入れに伴う、保育園設備の充実

3. 育む



- 保育園のお遊戯室は、エアコンがないことから夏場の活用を控えていた。また、園児の送迎をする親・祖父母からは、「子どもを抱きかかえたまま、園内に入れるようにしてほしい」、「入口の近くに駐車したい」との要望をいただいていた。
- 園児の活動環境改善や、保育園留学園児の受け入れ環境の強化のため、要望のあった設備等について、段階的に改修工事を実施。
- 今後も、利用者ニーズの把握をしながら、保育園の環境整備を進めていく。

■ お遊戯室へのエアコン設置



▲令和6年8月に整備完了

■ 玄関の自動開閉・オートロック化



▲令和7年9月に整備完了

■ 送迎用駐車スペースの増設



▲令和7年9月に整備完了

保育園留学の拡大期における対応策

2.つながる



- 令和5年より保育園留学を開始し、リピーターの成長とともに小学生受入ニーズがあることから、令和7年度より小学校留学にも挑戦。
- 導入期は、宿泊は民間旅館か、町合宿所での滞在であったが、アンケートを受けて、令和7年度より保育園に近い町営住宅2戸を活用。
- 令和7年度より、他の留学受入自治体との差別化のため、留学前後で相談できるコンシェルジュを創設し伴走支援を行う。
- 令和7年度より、ノウハウやネットワークを取得した町内地域商社が留学の受入事業を開始。持続可能な状況となった。
- 留学家族の居住地は、約6割が首都圏、約4割が東海・近畿圏からの来町。

■ 小学校・保育園留学の推移と支援策の充実

	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	担当課
保育園留学	10名	31名	40名	24名	健康福祉課
小学校留学	—	—	10名	5名	まなぶ課
うち民間事業者	10名	31名	40名	26名	
うち地域商社	—	—	6名	3名	
おためし住宅提供	—	5戸	5戸	6戸	つなぐ課
おためし住宅管理	—	—	○	○	つなぐ課
コンシェルジュ	—	—	○	○	つなぐ課



■ 小学校・保育園留学の季節ごとの受入数(令和7年度)

	春	夏	秋	冬
受入数	2名	24名	8名	16名

保育園留学の効果、さらに強化するための英語教育導入

2.つながる



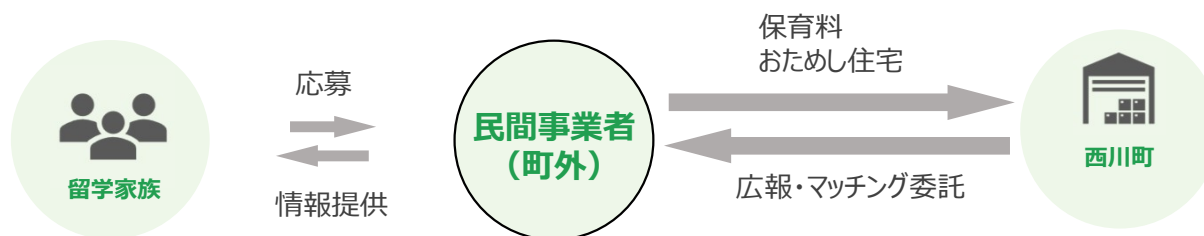
効果

- 政策効果 ①関係人口獲得、②保育士の雇用確保、③保育園児の寛容性向上 には一定の成果が見られた。
- 経済効果 1週間滞在により、お試し住宅17,500円、保育料26,500円、生活消費7万円以上の効果が見られた。
- 町内地域商社や町がつながり、定期的な情報提供を行うことにより、**保育園留学利用者の56%はふるさと納税**を実施。

課題

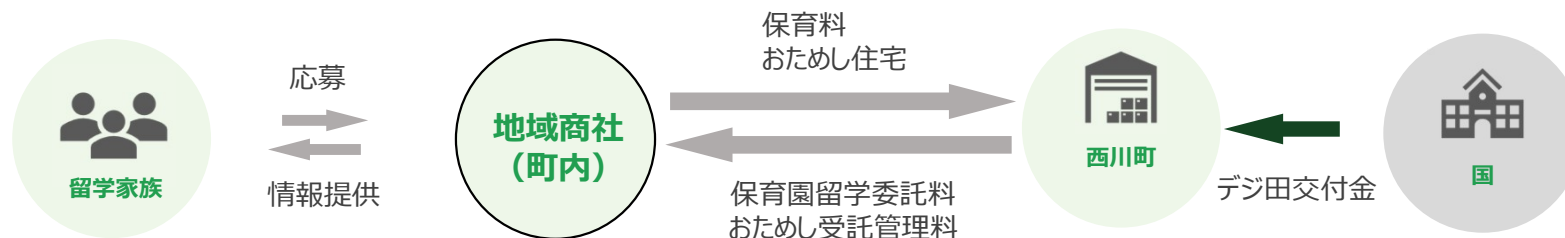
- ▲**手数料** ➡ 高いリピート率の維持および上昇を目指し、**町内地域商社による滞在支援やコンシェルジュの設置**でさらなるホスピタリティの向上
- ▲二拠点居住実績 ➡ 学校法人明泉学園**フェリシア保育園と連携し、保育園での英語教育を強化**し、移住政策の柱に。

通常スキーム（1家族：大人2名・子1名の場合）



フェリシア保育園（東京・町田市）イマージョンコース

西川町スキーム（1家族：大人2名・子2名の場合）



■ 小学校・保育園留学家族の声

- 子ども達や先生方が温かく迎えてくださり、いつもは泣いて登園を嫌がる息子が、この一週間は「早く保育園に行こう！」と言うようになった。
- 地域の方々が温かく声をかけてくださり、温泉や豊かな自然にも恵まれたとても魅力的な町。仕事の都合が無ければ、この町で子育てがしたいと思えるほど魅力的な環境だった。
- まるで以前からこの保育園に通っていたかのように、朝から友だちに挨拶したり、親から離れて先生のところに行ったり、すぐに慣れている息子の新たな一面に驚いた。
- 保育園の口コミや利用者の感想がとてもよかったことが、この町を選んだ決め手になった。

■ 受入側（保育士、保護者、園児）の声

- 関西からの留学児が滞在した時は、一緒に関西弁を話したり、関西弁の絵本に興味を持ったり、他地域の言葉や文化に関心を持つようになった。
- 英語が話せる留学児との関わりを楽しみながら自分たちが知っている英語を使おうとする姿が見られ、言葉への関心が広がった。
- 留学児との交流は子ども達にとって印象深く、家庭でもその様子を話してくれる。また、自分も保育園留学に行ってみたいと憧れをいただく子どもの達の姿も見られる。